

# オリーブの会通信

2012年11月7日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会  
〒760-0078 高松市今里町一丁目499-2  
連絡先 TEL/FAX 087-843-9877 (川井)  
<http://khj-olive.com/>



## 第125回月例会ご案内

|       |  |
|-------|--|
| 日 時   | 2012年11月25日(日) 13:30~16:30 (受付:13:00~)   |
| 場 所   | 香川県社会福祉総合センター 6階 研修室<br>高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334  |
| 内 容   | 13:30~15:00 講演「抑うつ、強迫神経症の苦しさ」<br>・講師 メディカルカウンセリングルーム<br>たなかクリニック院長<br>精神科医 田中 和孝氏<br>(質疑応答)<br>15:00~15:10 休憩<br>15:10~15:30 第10回アンケート実施(KHJ本部より) 他<br>15:30~16:30 小グループに分かれての話し合い |
| 参 加 費 | ・会員 1家族 1,000円 ・非会員 1家族 1,500円   |

朝夕めっきり寒くなり山野も色づき始める頃となりましたが、会員の皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。

さて、10月の月例会の概要と11月の行事予定などをお知らせします。

なお、10月21日の月例会では、会に先立ち、先日、急逝された里元副理事長のご冥福をお祈りし、出席者全員で黙祷を捧げました。

続いて、川井理事長から10月7日の運営委員会の概要報告（主なもの3点）がありました。

1 高松市との協働企画提案事業「地域でひきこもりを考える」について

平成24年度高松市協働企画提案事業「地域でひきこもりを考える」第1回9月2日高松市保健センターにおいて多数の出席をいただき開催することが出来ました。第2回は、12月16日（日）県社会福祉総合センター 7階 第二中会議室において開催を予定しています。また、香川県精神保健福祉センター主催の講演会（11月29日開催予定）も関連がありますので、会員の皆さんはぜひ多数ご出席をお願いします。

（詳細は6ページに掲載）

2 親の学習会について

11月20日（火）（例会時 間違っ~~て~~11月15日とお伝えしていました。）13時から16時30分（県合同庁舎 高松市松島町）、18時から20時（当会居場所 高松市今里町）の2回に分けて親の学習会を開催します。講師はSCSカウンセラー 高橋 晋氏です。

（詳細は7ページに掲載）

3 居場所活動について

11月11日（日）のポパイの会では、パソコンの組み立て（10月14日の続き）と年賀はがきの作成を予定しています。

（11月18・21日についても詳細は6ページに掲載）

## 第一部 各種会合への出席報告（概要）

1 愛媛県心と体の健康センター主催（10月6日松山市）{加藤理事報告}（参考資料あり）

講師：KHJ全引連副理事長 精神科医 中垣内 正和氏

(1) 「ひきこもり外来250名の実践から」

- ・ 11年前にひきこもり外来を立ち上げたが、未来に対しては希望がある。
- ・ 70万人位いるひきこもり当事者は、人付き合いが無い~~ため~~、ひきこもりとなっている。
- ・ 対応として、支援システム（家族会等）が近くにあればお互いに行き来する。
- ・ 外来250人中には統合失調症、発達障害も含まれており、ひきこもり者はその谷間にいる。
- ・ 家族が対応に取り組むのはいつからでも良い。安心して話すことが出来るようにする。ただ、就労第一主義ではない。リバウンドさせないのは親の責任である。

(2) 「ひきこもりからの回復へ親の10ステップ」

10年間の経験から言えることは、親のかかわりが大事である。

- 1.やり方を見直す
- 2.ひきこもるには理由がある
- 3.男女分業から夫婦協力へ
- 4.まず親が仲間をつくる

- 5.第三者を活用する（民間サイドでのつながり）
- 6.親の価値観は若者に通じない
- 7.家族生活を楽しむ（笑顔を絶やさない）
- 8.一喜一憂しない（母任せにしない）
- 9.親が学習する
- 10.共生とのつながりをめざして今からスタート

(3) 「ひきこもり対応のポイント」

一次予防＝発生防止、二次予防＝早期発見早期対応

三次予防＝社会参加（就労に限定しない）

ひきこもりは時代のカナリヤ、官民総力を挙げて取り組む必要がある。



**2 KHJ 京都大会・高松市協働企画提案事業等（川井理事長報告等）**

(1) 京都大会（9月8日～9日開催）

「ひきこもりの若者と貧困社会」（全体会）「就労支援と貧困」（分科会）については、KHJの会報「旅立ち」の記事のとおりです。その他の分科会についても簡潔に書かれています。よくお読みください。なお、兄弟姉妹の会についてはメールでやりとりしますので、登録が必要です。入会希望の方は川井までご連絡ください。

(2) 高松市協働企画提案事業の講演（9月2日開催）後の山本耕平先生、竹森元彦先生の討論より。

指定討論者 竹森先生：

- 若者たちがどのような状況におかれているか、ひきこもりはそのひとつの現象であること、ひきこもりの、歴史的な背景の中での位置付けの説明をされました。また、これは地域社会の中でどのように関わっていくのか大筋が示され、社会的な問題であるということが認識されたと感じています。
- ソーシャルワークをする上で、支援する・されるという関係性では、本当の自立や引きこもりの解決、いじめの問題などの対応にはならないという考え方をご紹介いただきました。
- 居場所の問題は大切で、ひきこもりの若者が就労に至るまでの支援が十分ではありません。対策として当事者の意見をよく聞かなければ意味をなしません。
- 若者に向き合う姿勢や、リカバリーに向かう社会など、その点についても山本先生に投げかけていきたいと思います。

山本先生：

- 今日のはあえてひきこもり支援という言葉を使わなかったのは、若者の問題を総合的にどう捉えるか、という視点があります。若者全体の問題を社会の中でどう扱うか、という話をしてみたかったからです。
- たとえば現在大きく取り上げられている いじめも、ひきこもりと分けることなく、若者全体の問題として考えてみなければなりません。  
驚きを呼ぶ問題が多いが、ある意味、それは起こって当然でもあります。  
いじめにあって、学校に通えない子どもはたくさんいるので、ひきこもりも総合的に捉えていく必要があると考えています。

- ソーシャルワーカーをしていた時、継続的な支援が出来た人は何とかやっている、支援が途絶えてしまった子や親は、苦しい状況に置かれています。継続的な支援の重要性について考えていきたい。
- 学校に戻ることが出来た人が、大学の通学に挫折したが、それが自分の考え・こだわりによるものであったと認識できたのは重要なことでした。  
若者は、居場所の中で、安心して自分の荷をおろすことが出来るようになり、緩やかに参加する場所で強制されることもなく、自分が参加できるときに参加し、彼ら自身が安心して主体的に関われることが大切でした。
- 緩やかに参加して主体的にかかわれる所、安心して自分を語れる場所が居場所だと痛感した。
- 福祉の仕事をしている娘が「しんどい」と言って来た時、本人との距離のとり方が難しかった。でも、色々と娘から学ばせてもらったので「有難う」と言った。心に痛みを抱えた娘のことで自分たちの問題を考えることが出来たのは良かった。

(3) オリーブの会の態勢等について（お願い）

オリーブの会の態勢については、故里副理事長の空席に伴う早急の対応が必要となる。

会員の皆さんは、奮って立候補をお願いします。

また、今後の居場所活動についても積極的な意見・提言をお願いします。

第二部 地域社会で生き抜くための社会保障制度について

(参考資料あり)

講師： 泉 善 法氏

1 はじめに

「引きこもりの若者」を何とか社会参加させることができないかを考えて行きたい。

2 日本の社会保障制度

障害と認められれば、色々な制度が充実している。

○ 「生活保護法」

受給世帯数 211 万世帯（昭和 50～60 年代 130 万世帯）

国民の生活を守るのが基本である。昔は「一人暮らしのお年寄りが半数」今は「若い一人暮らし、ホームレス」が増えている。

国も年間 3 兆 7000 万円を社会保障費に充当している。これからは本当に必要な人に支給することとなっている。

○ 「年金制度」

引きこもりは、年間所得がゼロでも、障害認定してもらえないと、障害年金は受けられない。国民年金は支給開始年齢が 65 歳であり、引きこもりの方は 40 年間、毎月の掛け金を納めていけばもらえることとなるが、親の高齢化もあり難しい。

3 これからの対応

今後、引きこもり者は「生活保護」も「障害年金」も難しくなる。そのため、家族会等は、国が「障害者自立支援法」に基づき、「居場所」「アウトリーチ」「ピアカウンセラー」の経費として7億円を2013年度に予算要求しているので、行政とタイアップしながら活動を進めていく必要がある。

#### 泉氏の考える

#### 4 当面の課題（4点）

- 「実態調査」 境先生の調査（KHJ 本部）を参考にして県内の実態調査を行う。
- 「具体的支援」 ひきこもり地域支援センターとの連携を密にする。  
例えば、秋田県藤里町の保健師の活動が厚生労働省のモデル事業となっており、今後、広まると思われる。  
同町の保健師は、引きこもり者の「ドアまで出かけて行って声をかける」（何度でも繰り返す～アウトリーチ＝手を差し伸べる）ことで引きこもり者を部屋から出させ、居場所でのデイケアに参加させた後、作業所を経由して一般就労に至らせたもの。
- 「親同士の交流」  
親は家を出て、親同士で協力して相互に家庭訪問する。
- 「生活保障」  
医師の診断書が必要。ICD10の何に当たるのか判定してもらおう。「診断書」があれば、「障害者受給者証」の交付が受けられるので、生活が保障されることとなる。

#### 泉氏の考える

#### 5 オリーブの会の課題（6点）

- 「居場所の経営安定化」
- 「アンケート調査の実施」
- 「当事者の親のニーズを把握」
- 「働く場所、作業所に出られる当事者の把握」
- 「作業所作りの準備」
- 「ピア・カウンセリングとして行政とタイアップ」



#### 6 最後に

重度の障害者の生き様はその社会の幸せの指標である。  
ボランティアだけでなく弱い者の立場から社会を見ていく。  
社会の風は冷たいが、我々が切り開くことで、引きこもり当事者が本当の生き方を掴むと考える。

- 元当事者（泉氏の作業所でボランティア）の女性が数分間語ってくれました。  
不登校、ひきこもり、摂食障害と11年間苦しんだ20代の女性から、今は、家を出て働くことの楽しさを知ることが出来、毎日が充実している。女性は、自分が家を出られた

のは、親が「行き先を提供してくれたこと」である。どうか、当事者が出たいと言った時、親は、「行き先を提供してあげてほしい」と。

月例会終了後、数人の親は「いいお話を聞かせてもらって元気をもらいました。有難う。」と、その女性にお礼を言って帰っていました。

**[11月・12月 居場所活動予定]**

| 内 容                | 月日    | 曜日 | 時 間         | 担 当     |
|--------------------|-------|----|-------------|---------|
| 第7回運営委員会           | 11/4  | 日  | 13:30～      | 川井      |
| 第8回運営委員会           | 12/2  | 日  | 13:30～      | 川井      |
| 個人カウンセリング（松田先生）    | 11/10 | 土  | 9:00～       | 加藤      |
| 個人カウンセリング（松田先生）    | 12/8  | 土  | 9:00～       | 川井      |
| ポパイの会：パソコン教室、年賀状作成 | 11/11 | 日  | 13:30～      | 森下      |
| 〃：パソコン教室、おしゃべり     | 11/18 | 日  | 13:30～      | サポステ鷲見氏 |
| 〃：おしゃべり会           | 11/21 | 水  | 11:00～13:00 | SCS 高橋氏 |

**【127回 月例会予定】**

|       |  |
|-------|--|
| 日 時   | 2013年1月27日（日）13:00～受付 13:30～16:30（予定）  |
| 場 所   | 香川県社会福祉総合センター 6階 研修室   |
| 内 容   | 「ワーキングスタイルの追求」（仮題）<br>本人・家族の相談も受付（予定）<br>講師：NPO法人JCIテレワーカーズ ネットワーク<br>理事長 猪子 和幸氏 |
| 担 当 G | Bグループ  |

**[高松市協働企画提案事業]チラシ同封**

|       |   |
|-------|---|
| 日 時   | 2012年12月16日（日）受付13:00 時間13:30～16:00   |
| 場 所   | 香川県社会福祉総合センター 7階 第二会議室  |
| 内 容   | 高松市協働企画提案事業 「地域でひきこもりを考える」<br>—私たちができること それぞれの立場から—<br><u>シンポジウム&amp;グループミーティング（意見交換）</u><br>ひきこもりとその支援の現状と課題を通して、自分たちにできることなど、自由に意見交換してみませんか。<br><u>☆会員の方は、当事業の目的が、地域の方に理解していただくためでもありますので、お声かけ下されば幸いです。</u><br>(当事者、親の会、香川県、高松市、職業支援) |
| 主催・共催 | 主催：NPO法人KHJ香川県オリーブの会 共催：高松市   |
| 参加費   | 無 料   |

※会員の方の12/16参加の有無については、11月例会にて確認させていただきます。

【講演等のお知らせ】

|      |   |
|------|---|
| 研修講座 | 青少年育成支援ネットワーク研修講座<br>「ひきこもり、ニートの現状と対策のいま」<br>—とり残される若者たち— |
| 講師等  | ひきこもり親の会、若者サポートステーションほか                                   |
| 日時   | 2012年11月2日(済)・11月17日(土) 10:00～14:30                       |
| 場所   | サンメッセ香川 中会議室  |
| 主催   | 香川県   |
| 参加費  | 無料  |
| 講演   | 「多様なひきこもりを支援する」<br>—「居場所」と「出番」づくりに寄り添う—                   |
| 講師   | よこはま若者サポートステーション施設長、NPO法人ユースポート横浜理事<br>臨床心理士 鈴木 晶子 氏      |
| 日時   | 2012年11月29日(木) 13:30～15:45                                |
| 場所   | 香川県立ミュージアム 講堂 (高松市玉藻町5-5)                                 |
| 主催   | 香川県精神保健福祉センター   |
| 参加費  | 無料  |

【親の学習会のお知らせ】

親の学習会を下記の通り開催いたします。親の10ステップ(中垣内先生のひきこもりからの回復)のなかでも、学習会の重要性が挙げられております。

なお開催場所につきましては、県精神保健福祉センター 藤田氏にご配慮いただきました。

|     |   |
|-----|---|
| 日時  | 2012年11月20日(火) 13:00～16:30 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">夜</span> 18:00～20:00(居場所) |
| 場所  | 香川県高松合同庁舎 4階 第2会議室 (高松市松島町1丁目17番28号)  |
| 内容  | ・子どもが元気になる魔法 ・「ひきこもり」を大切な生きる力にしよう<br>・子どもが親を避け続ける訳  |
| 講師  | SCSカウンセラー 高橋 晋氏(元当事者・電話相談等担当)   |
| 受講料 | ☆13:00～20:00 受講の場合 5千円<br>☆昼の部のみ・夜の部のみ // 其々 3千円<br>☆ご夫婦で参加の場合 1名無料(参加人数が少ない場合は有料とします。)                   |
| 担当  | 講座申し込み受付:川井 携帯(090-4332-3288)へお願いします。   |
| 締切日 | 11月18日(日)   |